ねっとわーく厚生 network
vol. 15
2013.6
財団法人山梨厚生会
山梨厚生病院
■ 編集・発行 ■
山梨厚生病院　広報委員会
TEL 0553-23-1311
URL http://www.kosei.jp/

平成25年度を迎えて

院長　千葉成宏

今年の春は、寒い日が続いたあと急に暖かくなり、北国の春を思わせるように、梅、桜、桃をはじめ、様々な花々が一斉に咲きだすという、少し異常な春の到来でした。
当院ではこの春、例年のように多くの新入職員を迎え、全職員の気持ちが改まり引き締まって、新しい年度を迎えたところです。またこの春には、看護師などの制服もリニューアルされ、一段と新年度という感じになりました。

毎年、新年度に向けて運営目標という形で、仕事をして行く上での心構えや重点施策などを掲げていますが、今年度は原点に返って、皆に分かりやすくというつもりで、職員一人一人の態度や行動が、当院の基本理念を標語にした「やさしく　親切　ていねいに」に即したものであるか、常に自問自答すること、また職員が互いにチェックしあい、お互いの気づきで、己を高め、相手を高め、医療事故を防いでいくこと、専門職の集団である強みを生かしてチームワークで仕事を進め、相乗効果を生み出していくこと、などを目標としました。目標を掲げることは簡単ですが、実行がなければ何の意味もありません。各部門ごとにそれぞれの部門に即した行動目標を作り、定期的に振り返って評価していく、企業などでいうPDCA（plan-do-check-act）サイクルと同じ考えです。このところ患者さんをはじめ、連携している医療機関などから、当院に寄せられた厳しい叱正や評価を重く受け止め、また危機に対するくすりともして、一つ一つ丁寧に対応していかなければならないと思っています。

当院は地域の災害拠点病院に指定されていて、以前から災害対策のハード・ソフト両面で取り組んできましたが、2年前の東日本大震災以来、災害時にも診療機能を維持できることを目標に施設・環境の整備や災害訓練などをさらに強化しています。近い将来新たな震災の発生が危惧されるいま、一人でも多くの患者さんや地域の住民、職員の安全を守るよう努めてまいります。

国は10年ほど前から、大きな病院を対象に、診断群分類に基づいた入院医療費の包括支払制度（DPC/PDPS）を順次進めて参りました。この制度はいろいろな側面を持っていて、医療制度に大きな変化をもたらすものとされていますが、私達の立場から一口に言えば、医療費の適正配分が主目的と考えられます。したがって私達は制度をよく理解し、適切に対応していく必要があります。これも今年度の取り組み目標の一つとなりました。

今年度の目標などを述べましたが、常に変わらない当院の目標は、この地域の拠点病院として地域に即した診療や看護を提供すること、総合病院のメリットを生かした各科が連携した診療を行うこと、より高度な専門的治療を提供することなどとなりましょう。

今後とも地域の皆様、医療機関の皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。

平成25年度病院運営目標

1．高める！　質の高い医療は技術・知識に支えられ、科学的根拠に基づくもので、患者満足度の高いものである。基本理念を念頭において行動しよう。

2．見直す！　これでいいのか？日常の仕事をもう一度見つめ直そう。仲間同士のチェックで医療安全を進め、インシデントを減らそう。

3．繋がる！　助け合う心で、他職種・他部門との連携を更に密にしよう。病院の役割を考え、地域連携を大切にしよう。

4．育てる！　育てられた人が次の人を育てる風土を築こう。
若い芽を摘まない－まず聞くこと・一緒に考えること－

5．整える！　災害に備え、感染等の医療安全にも適った施設の整備を行う。ＤＰＣへの対応を進める。

山梨厚生会・山梨厚生病院シンボルマーク・ロゴタイプ決定

このたび（財）山梨厚生会の理念である「やさしく・親切・ていねいに」を視覚的に表現したシンボルマークとロゴタイプが完成いたしました。

【シンボルマークコンセプト】

シンボルマークは、山梨厚生会であることを明確にし、また独自性を持たせるため「山梨のＹ」と「厚生のＫ」を素材として使用し、更にそこに法人理念「やさしく・親切・ていねいに」を表現するハートをイメージさせる形状を融合させました。

色調は、やさしさ・温かさをあらわす淡いピンクで幸福感を、水・青空を表すブルーで信頼、清潔感を表現しています。

このマークの下、地域に愛され、信頼される医療機関として今後も成長していくことを誓うものです。

【ロゴタイプコンセプト】

誠実さが表現できるゴシック体をベースに、シンプルな印象の中にもしっかりと読めることを重視したデザインとしました。更にやさしさと柔らかさをイメージできるよう、文字の角に若干の丸みを持たせてあります。

【新シンボルマーク】

YAMANASHI KOSEIKAI

【新ロゴタイプ】

財団法人　山梨厚生会
山梨厚生病院
YAMANASHI KOSEI HOSPITAL

看護スタッフのユニフォームが新しくなりました

副看護部長　矢　﨑　はる美

平成25年度より、看護スタッフ（看護師・クラーク）のユニフォームを一新しました。
看護師の制服は、時代の流れとともに徐々に変化してきました。白衣の天使と呼ばれた、昔のナイチンゲールスタイル（白衣・スカート）から、近年では、感染対策・災害時対応の観点から、より動きやすく機能的なものへ、また看護スタッフの活動範囲の拡大や男性看護師の増加に伴いスカートからパンタロンタイプが主流となっています。最近は、白衣にこだわらないカラーユニフォームもちらほら見られるようになってきました。

当院でも、平成17年にスカートタイプからパンタロンタイプへの移行が決定され、看護部内で約1年の選考を経て、平成18年7月、全面的な切り替えを行いました。それ以来となる今回の変更はこの流れを引き継ぎ、基本スタイルはパンタロンタイプを採用しました。「清潔感と機能性＋若々しさ」を選考コンセプトとし、首回りがスッキリとしたデザインでかつ襟周りやサイドにはポイントとしてアクセントカラーを配した3パターンを用意しました。

クラーク（病棟事務員・外来事務員）のユニフォームについては、看護師と同様にパンタロンタイプとし、病院の基本理念である「やさしく・親切・ていねいに」の中の「やさしさ」を選考コンセプトとしました。

看護スタッフ全員が、新ユニフォームに恥じない看護サービスを提供しようと決意を新たにしています。

新バイプレーン血管撮影装置を導入しました。

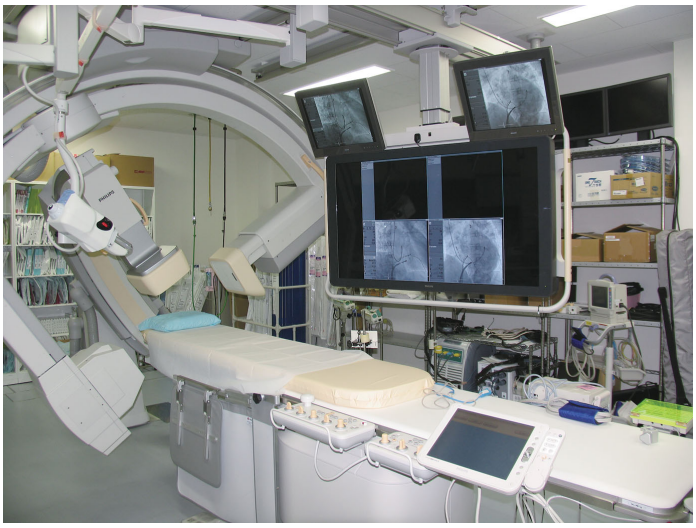
放射線室技師長　精　進　義　人

６月より心臓をはじめとする全身の血管を「１度に２方向（バイプレーン）」から診断することができる、最新のフルデジタル技術を搭載した血管連続撮影装置を導入しました。

この装置は、主に心臓血管（冠動脈）撮影を行いながら、血管内にカテーテルという細い管を挿入し、動脈硬化等によってひき起こされる心臓血管狭窄や不整脈などの症状に対し生理的検査や治療を行うものです。また頭部・腹部・四肢など全身の血管撮影も行うことができます。

このたび導入した～ PHILIPS 社（ﾌｨﾘｯﾌﾟｽ社）AlluraXper FD10（ｱﾙｰﾗｴｯｸｽﾊﾟｰFD10）～は、今まで当院で使用してきたアナログタイプの装置に比べ、より小さな血管の病変部を見つけ出すことができ、更に高解像度・高画質の５６インチ大型 LCD モニタ（FlexVisonXL）に映し出された鮮明な画像を参考に、より正確な血管内治療を行うことが可能となります。

また、この装置は、人間工学に基づく直観的なユーザーインターフェースを備えており、術者は、システムの操作に気をとられることなく患者に集中することができるといった優れた特長があります。



◀本体と LCD モニタ

▼中央制御室

平成 25 年度入所式

平成 25 年４月１日（月）、平成 25 年度新入職員入所式が、山梨厚生会理事長、山梨厚生病院院長はじめ法人幹部の方々のご臨席のもと、取り行われました。

新入職員紹介　～よろしくお願いします～

今年度採用された32名の新人を紹介します。

◀左上から
小林　　愛（医事事務）　小林　智子（医事事務）
横内　加奈（医事事務）　島田　靖子（診療情報管理士）
土橋　美咲（診療情報管理士）
◀左下から
駒井　由佳（人間ドック事務）　佐野　歩美（外来事務）
八巻加代子（外来事務）　鮎澤　　舞（医事事務）

◀向山　勝樹（作業療法士）

▲左上から
高野　直也（視能訓練士）
廣瀬　翔（臨床工学技士）
稲葉　凌太（作業療法士）

▲左下から
広瀬　千鶴（薬剤師）
渡辺　舞（精神保健福祉士）
小澤　里沙（作業療法士）

▲左上から
吉沢麻衣子（看護師）
小林　　亮（看護師）
穐山　　司（准看護師）

▲左下から
平塚那津巳（看護師）
卜部　　杏（看護師）

▲左上から
橘田　里香（看護師）
山中　千恵（看護師）
鈴木　里穂（看護師）

▲左下から
佐藤　莉乃（看護師）
田中　綾夏（看護師）
廣瀬真衣子（看護師）

▲左上から
山下　成美（保健師）
武川　　愛（看護師）
日野原実希（看護師）

▲左下から
名取絵梨奈（看護師）
市川由美華（看護師）